

赤い羽根共同募金 今ある活動を「そだてる」助成 活動成果報告書

◎申請法人： 公益社団法人 群馬県身体障害者福祉団体連合会

◎企画名： 身体障害者の世代間交流促進事業

◎配分額

3年間合計 1,068,740円（1年目431,740円、2年目368,000円、3年目269,000円）

1 課題認識・解決の目標

身体障害者の世代間交流（特に若者と高齢者）が全く行われていない。

共生社会実現のための身体障害者を代表する要望・提案等は、身障団体を通じて国等へ発信されているが、団体の構成員が高齢者のみであるため、幅広い世代（特に若者）の考えが反映されていない。

口コミや関係団体の協力を得て若い身障者からアンケート・ヒアリングを行い、若い身障者の現状を把握し、その考え方をできるだけ理解したうえで、両者の交流会（意見交換会を含む）を開催する。

また、両者が共生できる場（団体）づくりを進め、当事者の活動の幅を拡大し、世代間交流を促進する。

2 3年間の取組

< 1年目 >

関係団体の協力を得るとともに、SNS及び口コミにより若い身障者・高齢の身障者にアンケートを実施した。また、若い身障者を中心にヒアリングを実施して、アンケートの回答を裏付ける「本音」を聞くことができた。

< 2年目 >

世代間の考え方の違いを認識し、相互理解を図るために、「世代間交流会」（意見交換会を含む）を3回開催した。

○ミニ講演会・意見交換会

○ボッチャ交流会・意見交換会

○俳句交流会・意見交換会

< 3年目 >

世代間の「交流の場」を創出し世代間交流を継続して、全世代の意見を発信できる団体を目指すためには一層の相互理解が必要となることから、参加者の要望やタイムリーなテーマの世代間交流会を3回開催した。

○パラリンピアン講演会・意見交換会

○SNS講習会・意見交換会

○ボッチャ交流会・意見交換会

< まとめ >

1年目のアンケートとヒアリングにより、今まで全く知ることのできなかつた若い身障者の行動や考え方的一端が分かり、それを前提に両者の相互理解を図るための世代間交流会・意見交換会を重ね、一つの成功例をつくることができた。



3 参加者の変化

2年目の「ミニ講演会・意見交換会」の中で、講師や若い身障者から、コロナ禍では、交流の手段としてSNSが必須であり、高齢者も使用すべきであるという意見が多く出された。

これを受けて、3カ月後の交流会（意見交換会）では、一部の若者と高齢者がSNSを巡って激しく言い争う様子が見られたが、3年目の「SNS講習会」では多くの高齢者がスマホ持参で参加してくれた。（多くの高齢者がガラケーからスマホに切り替えた）

意見の不一致により交流会から去って行く若者もいたが、毎回参加する若者も見られ、今後のキーパーソンとなることが期待される。

4 できなかったこと・今後の課題

3年目はコロナ禍により、予定していた事業を全て実施することはできなかった。

6回予定していた世代間交流会も3度の延期も影響して、半分の3回の実施となってしまった。

今後は、両者が共生できる「場」づくりを進めることとなるが、同時に若者同士が集まり、研修会やセミナー等の活動が実施できる拠点も設置する必要があると考えている。